

各地区の夏祭り

ダンダン祭り

日時：8月2日(土)午前11時
(雨天の場合は翌日開催)
場所：真駒内中央公園
(真駒内泉町1丁目)



石山夏まつり

日時：8月2日(土)午後3時
(雨天の場合は、石山会館でアトラクションのみ開催)
場所：石山北公園(石山1条3丁目)

もいわ夏まつり

日時：8月3日(日)午前11時
(雨天決行)
場所：藻南公園(川沿10条1丁目)



澄川ふれあい祭り

日時：7月20日(日)午後1時
(雨天中止の場合は翌日開催)
場所：すみ川駅前パーキング
(澄川3条2丁目)

第39回定山溪かっぱまつり

日時：8月2日(土)正午
8月3日(日)正午
(両日とも雨天決行)
場所：定山溪温泉街



藤野ふるさと祭り

日時：8月2日(土)午前10時
(雨天中止の場合は翌日開催)
場所：十五島公園(藤野108地先)

藻岩下たなぼた祭り

日時：8月7日(木)午後4時
(雨天中止)
場所：藻岩下商店街みゆき通り

見る・知る・遊ぶ ふるさと⑩

かたいしやま 硬石山

札幌の街を支える「土台石」

山の名前を「こうせきやま」と呼ぶ人も多いでしょう。しかし、地名としては、「かたいしやま」と呼ぶのが正解です。ご存知でしたか？

硬石山は、第三紀中新世(約二千四百万年前〜五百万年前)末に、深部のマグマから貫入した石英安山岩で、堅硬な岩質です。

明治二年、札幌本府づくりが開始され、開拓使顧問ケプランが、本府建設に石造りの洋風建築様式を採用するよう建言したことから、開拓使がその方針を決定しました。その洋風建築が進むにつれ、そ



▲昭和28年ころの硬石山



▲現在の硬石山での採石の様子

の土台石としての石材が必要になり、札幌近郊の石材調査を行ったところ、明治三年五月、本府の建設工事を行っていた開拓使請負人大岡助右衛門が硬石山を発見。採掘を開始し、主に建材用の角石を切り出していました。

大岡は、八垂別から硬石山まで新道づくりをしながら採掘した硬石を運び、自分の請負った建築工事に使用していました。明治十三年には生産

高一万八千三十九個を記録し、硬石の生産は日を追って増加しました。

明治十四年建築の豊平館をはじめ、同二十一年には赤レンガとして親しまれている道庁の旧本庁舎、以後ビール会社、製麻工場などの礎石として重要な石材となりました。その後、大正九年から行

われた豊平川上流の堤防工事には間知石(三十センチメートル角の角すい型のもの)を一万个、昭和十八年の千歳飛行場の建設には、十二万トンもの割栗石(こぶし大に割った石)を供給しました。

しかし、コンクリートが一般に普及すると、硬石は従来の建材用から、コンクリート原料や道路舗装用の砕石(砕石機を使用し、細かく砕いた石)としての役目を担うようになりました。

藻岩南小学校にある硬石山郷土資料室には、採掘当初からの道具や当時の写真など、貴重な資料が保管されています。地域の歴史を学ぶことができます。(詳細は、藻岩南小学校 電話(572)2101)



▲藻岩南小学校硬石山郷土資料室

